

東邦大学医療センター大橋病院産婦人科専攻研修プログラム

大橋・選択専攻科目

耳鼻咽喉科（2～6ヶ月）

1 目的と特徴G I O

卒後、基礎研修中、臨床医として特殊性のある耳鼻咽喉科疾患を理解し日常臨床に反映させるために作成された初期研修プログラムである。厚生労働省による2年間の臨床研修到達目標の達成が前提となる。

2 プログラム管理運営体制

プログラム委員会は東邦大学医学部耳鼻咽喉科学講座(大橋)のスタッフより構成され、随時会合して、本研究プログラムに関連する事項、研修医評価、外部医療機関での研修などにつき協議する。必要な事項は大橋病院院内教育委員会に報告し、指示を受ける。東邦大学大橋病院の臨床研修全般についての管理運営は大橋病院院内教育委員会が行っている。

外部の教育連携病院での研修は、大学病院と補完しあう特徴を生かして、特に小手術の教育と知識習得に役立てる。

3 教育課程

3-1 研修期間

大橋病院初期研修過程2年のうち2～6ヶ月連続研修を原則とする。

3-2 到達目標

本プログラムにおける耳鼻咽喉科の研修目標は日本耳鼻咽喉科学会認定専門医制度の目標に沿っている。大橋病院耳鼻咽喉科は多くの症例に恵まれ、特に鼻副鼻腔手術、咽喉頭疾患の手術、閉塞性睡眠時無呼吸症の手術など上気道障害に関連する疾患が多い。また、外来、入院患者を通して耳鼻咽喉科領域の主要疾患の一通りを経験することが可能である。手術症例は高齢者や基礎疾患を持っている患者が多く、術前チェックと術後管理の面で関連診療科と密接に連携しながら治療にあたることを原則としおり、全身管理、他科疾患の知識も充分習得する事ができるので、専門研修中も厚生労働省の到達目標の達成も可能である。

研修医は 指導医・上級医のもとで、外来と入院・手術患者を常時受け持ち、研修修了後、耳鼻咽喉科専門医研修過程にスムーズに移行できるよう訓練を受ける。

特殊な専門分野の検査や特殊外来にはローテーションで基礎的専門知識を得る。

教育連携病院における研修では、大学病院に少ない疾患、地域医療の連携を経験し、また夜間の全科当直により、全科的な救急患者の対応をおこなうことで、より実践的な知識を習得できる。

3-2-1 行動目標

1)耳鼻咽喉科疾患における重要な症状を理解し、必要最小限の身体所見をとることができる。

- 2)状態に応じた適切な検査を選択できる。
- 3)初期治療を的確に行うことができる。

3-2-2 経験目標

3-2-2-A 経験すべき診察法・検査・手技

- 1)問診にて重要な耳鼻咽喉科疾患の可能性を考えることができる。
- 2)局所所見から耳鼻咽喉科疾患の病態の把握を的確に行うことができ、記載できる。
- 3)聴力検査、平衡機能検査、呼吸機能検査など、耳鼻咽喉科に必要な検査所見を評価できる。
- 4)代表的な耳鼻咽喉科疾患のエックス線所見を評価できる。
- 5)気道確保を実施できる。
- 6)注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保）を実施できる。

3-2-2-B 経験すべき症状、病態、疾患

耳鼻咽喉科疾患全般

3-2-3 評価基準

耳鼻咽喉科疾患に適切に対応できる基本的な診察能力（態度、技能、知識）が修得されたかを基準として評価する。病棟看護師長、外来看護師長、外来長、病棟長それぞれを対象とした評価表を使用し、この評価表は研修協力病院でも同じものを使用する。

3-3 勤務時間

大橋病院の勤務時間は午前9時00分より午後5時までであるが、教室業務や受け持ち患者の診察があれば、この時間に制約されない。

3-4 教育行事

- i) 大橋病院耳鼻咽喉科としては新人教育目標と方法に従い研修がくまれている。その内容は日本耳鼻咽喉科学会認定専門医制度の1年目の研修内容をさらに具体的に充実させたものである。
- ii) 教室で定期的定期的に行われる研修関連行事としては；
教授回診（月曜日午後3時～）、術前症例検討会、入院・外来患者カンファレンス（毎週月曜日午後6時～）：
大学院講義を兼ねる
大橋耳鼻咽喉科臨床懇話会（年2回）
OB 並びに目黒区、世田谷区、渋谷区など近隣の耳鼻咽喉科開業医の先生方をお招きし、外部から講師を招聘して行う（日本耳鼻咽喉科学会学術集会として認定されている）。
医局会、抄読会：
毎週月曜日午後6時からの症例検討会に引き続き行われる。学会発表が近い場合には予演会も行われる。

学会発表：

初期研修の中に少なくとも1回以上の学会発表と、その内容について論文作成を行うように指導される。

3-5 指導体制

東邦大学医療センター大橋病院耳鼻咽喉科では研修医1名に対して、1名の上級医が直接指導し、研修する。また入院患者は指導医、病棟医長等とのグループディスカッションにより指導を受ける。手術患者は疾病によりその分野の指導責任者が加わる。またこれらは主任教授により監督される。教育連携病院派遣中は当該病院の部長ないしは医長の指導を受ける。

4 研修医評価

研修開始にあたり配布した研修簿に研修医は研修状況を記録する。東邦大学医療センター大橋病院耳鼻咽喉科病棟については病棟医長、外来では外来医長、診療当日の指導医の研修印、教育連携病院派遣中は当該病院指導責任者の研修印をもらう。

ここでの研修目標は初期2年間研修のうち2ヶ月の研修で達成できるよう構成されている。

5 プログラム修了後のコース

本研修プログラムは将来臨床医を目指すものに作成されている。従って2年間の初期研修修了後耳鼻咽喉科専門医を目指すものは、さらに耳鼻咽喉科において4年10ヶ月の臨床研修を継続し、東邦大学医療センター大橋病院耳鼻咽喉科のレジデント・助教となり、学位取得のための研究を行う。また同時に日本耳鼻咽喉科学会認定専門医資格取得を目指す。

<資料請求先>

〒153-8515 東京都目黒区大橋2-17-6

東邦大学医療センター大橋病院耳鼻咽喉科 大越俊夫 教授

TEL 03-3468-1251 内線 3435 (医局)

FAX 03-3468-3970 (医局直通)